

---

# 紅き椿が墮ちる頃

系遊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅き椿が堕ちる頃

### 【Nコード】

N4509I

### 【作者名】

糸遊

### 【あらすじ】

幼少の頃から遊郭で育てられてきた少年、しづる。身体を売り続けることで心をなくしかけていた彼の前に、とある客が現れる。

## 話

僕が布団の感触を直接肌で感じながら目覚めるようになったのは、既に物心ついた頃だった。

幼少のころに両親を亡くした僕は、遊郭という場所で育てられてきた。僕は小さい頃から顔立ちが良いと評判で、当時まだ十歳あまりの僕には”椿”という源氏名が与えられ、物心ついた頃には遊郭で“商品”として身体を売るようになっていた。

「お客に身体を売っている時のお前は“椿”だ。客の前では本当の自分は隠しているんだよ」

僕が商品として身体を売るようになり始めた頃、僕に椿という名を与えた葵姐さんがそう言って、紅をあしらった口元を艶やかに綻ばせてみせたのを今でも鮮明に覚えている。まだ幼かった僕にはその言葉を十分に理解することは出来なかったのだが。

十五になった今となってはその言葉がいかに重要なことか、幾重にも身体に刻み付けられている。

五年前のあの日から今に至るまで僕は数々の客に身を任せ、一人では明かすきれぬ夜を幾度と無く明かしてきたのだから。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4509i/>

---

紅き椿が墮ちる頃

2011年1月21日02時33分発行